

令和2年度第1回宇陀市総合教育会議 議事録

開催日時：令和2年9月18日（金） 15時～17時	
開催場所：宇陀市役所3階 庁議室	
構成員出席者	金剛一智宇陀市長 福田裕光教育長 岡本憲明教育委員 巽礼子教育委員 吉川壽一教育委員 峯畑忠郎教育委員
説明者	中西教育委員会事務局長 薄木教育員会次長 古谷教育員会次長 山岡総務課長 萩岡教育総務課長 垣内教育総務課主幹 小松原指導主事 柳井指導主事
協議事項	1 宇陀市の子ども現状について 2 コロナ禍における学校教育の現状について 3 今後の学校教育の方向性について
議事（発言内容等）	
市長	<p>本日は総合教育会議ということで、私も初めて出席をさせていただき、いささか緊張しております。私もいろいろ所信表明演説などで、まちづくりという中で誰1人取り残さないまちづくりというのをやっていきたいと申し上げました。具体的には、いろんなことはこれから考えていきたいと思うんですけども大きい柱としてはやはり、誰1人取り残さないまちだよという風に頑張っていきたいと思っておりますし、そして先日の議会の所信表明でも、子どもさんというのは、我々が未来から預かった大切な宝ですよというふうに思っております。そして、宇陀の子どもは知力・体力・学力、そしてその助け合う力があると。そういうような評価をされるような、子どもさんの生きる力を育む教育環境づくりに取り組んでいきたいということを、すいませんおこがましくも、議場でちょっと言わせていただきました。これはもう、私自身に向かって、心構えとして自分自身に向かって言ったような気がします。本日、教育委員会の皆様とこうして意見交換をさせていただく貴重な機会を作っていただきましたので、私も勉強させていただきたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。ありがとうございました。</p>
小松原 指導主事	<p><宇陀市の子ども現状について説明> 宇陀市学校教育の指導方針 基礎学力を大切に「生きる力」と「夢」を育む教育の実現</p>
垣内主幹	<p>1 確かな学力の育成「知」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・平成29年度・平成30年度・令和元年度の全国学力・学習状況調査等における宇陀市の子ども学力実態とその課題への取組みについてUDAスタンダードを中心として小中連携を進める中で推進 ・英語教育、プログラミング教育の取組み <p>2 豊かな人間性の育成「徳」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・令和元年度の全国学力・学習状況調査における宇陀市の子ども規範意識と自尊心について ・児童生徒の問題行動・不登校・生徒指導上の諸課題に関する調査における宇陀市の子ども問題行動の実態とその課題への取組について <p>3 健やかな心身の育成「体」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・全国体力・運動能力、運動習慣等調査及び幼児の運動能力調査における宇陀市の子ども体力の実態とその向上の取組みについて

<コロナ禍における学校教育の現状について説明>

新型コロナウイルスに対応した学校教育の課題と取組を、「感染拡大期」「感染収束期」「with コロナ期」に沿って説明

市長

ありがとうございました。

今、2つの報告がございました。まず、「宇陀市の子ども現状について」、委員の皆様のご意見をいただきたいと思ひます。

岡本委員

先ほどこちらの方で説明いただいた中で、確かな学力の育成という部分の円グラフがあったと思うんですけども、こちらの方、平成29年、平成30年のグラフに比べて、令和元年度、どちらかというとな国平均に近づいた丸い形の円グラフに変わってきていると思ひます。この部分については、今まで過去なぜ子どもの学力が伸びなかったのかとか、生活習慣が改善できなかったのかというのを検証していった中で、やっぱり宇陀スタンダードというものをたたき出して、それによって進められた結果が、こういう丸い円グラフ、全国平均に繋がるようなグラフに変わってきたんじゃないかなというふうに考えております。こういった宇陀スタンダードを進める中で成果、結果が出てきたんじゃないかなというふうに思っておりますので、この宇陀スタンダードをより一層推進していただいて、また抜けている部分、当然あると思ひます。これは検証していく中で、どんどん改善していったらいいことだと思ひますので、その部分を改善していただけて、より良い子どもたちへの指導の一つのお手本となるような、宇陀スタンダードというの、どんどん進化していただけて、子どもたちに良い指導をやっていただけたらなというふうに思っております。その辺も、後で出てくるコロナの話もあると思ひますけども、そういった部分も十分に含めながら、推進していただければなというふうに思っておりますので、今後ともよろしくお願ひいたします。私の意見です。

巽委員

失礼します。まず子どもの現状についてということで私も5年間、この場において、小中連携の良いモデルが菟田野地域の例を出されました。確か1年目に行った時に、菟田野保育所、すごく建物も古くて、でも保育士さんたちはすごく頑張っておられるけど、園長先生の悩みとしては、親に絵本を勧めても、なかなか読んでくれないんですと、家庭的な課題っていうのもおっしゃっていたんです。それから何年間かやっぱり、保育所の先生方も頑張られたし、特に親を巻き込むということでね。体力向上も確か菟田野保育所すごく頑張ったと。もう服装から変えられたんですね。厚底の靴を履いてきた子ども、ぴらぴらのスカート履いてきた子どもなど、服装は何でもありだったんですね。保育所だから。制限しなかったんですが、保育所でこんな格好で走られへんやろうとか、子どもの動きから動きやすい服装ってあるやろうって、また親にこう説得しながら、学力もですけどやはり体力の向上もすごく頑張ってきた。親との連携ってすごい強いと思ひます。特に菟田野地域の場合はやはり、保育所、そして小中連携というのがすごく、学力向上で、菟田野地域だけ断トツに低かったんですね。でもこの4、5年で変わってきたなっていうのもそう実感してますね。これは一つ、良い例を見させていただいたなということと、学力テストの中で、国語の力が弱いていうのはもう端的に毎年言われてました。で、テストを見させていただきました。大変小学校の国語、読む時間がないぐらい、読解力に時間がかかります。ちょっとやはり、のんびりした田舎で育った子には難しい、読みですね、長文読解が、大変時間がかかるし小学校の子どもにしたら、ちょっとしんどい問題作成になってるなっていうのは感じました。だからといって小学校で何もしないというわけにはいかないんですけども、かたや中学校では、ここ2、3年でかなり学力向上してきたなっていうのは感じています。学校全体の生活が子どもの生活が落ち着いてきたということもあると思

	<p>うんですけども、先生方も、数学、特に学力向上に向けて、授業をすごく焦点化するというか、学校訪問に行かせていただいても中学校の授業で、今まで、先生の授業、聞きたくない授業一生懸命我慢して聞いているような風景が、ちょっと違いました。やはり「先生これ明日まで覚えてくんの?」、「いや、今覚えろ」っていうような先生の切り返しの仕方、そういうのが1時間、45分、50分の授業の中で見えてきたなあというのを感じるので、その辺がやはり中学校で頑張られたなという点だと思います。3点目は何年間かの間でいろんな組織を作ってくださいました。いじめを中心として、宇陀市としても組織を、学校だけでは解決できないいろんな諸問題に対応する組織を作ってくださいました。人的な保障もしてきていただきました。その中でスクールソーシャルワーカーとか、特別支援教育の支援員さんの活動というのはよく目にするし、見えているんですけども、スクールソーシャルワーカーさんが中学校回ってはるっていう、先ほどのご説明の中で、その辺の利用率というか、現状ですね、中学校でスクールソーシャルワーカーの利用度っていうのが、どのようなのかというのを現状わかる範囲で教えていただいたらと思います。</p>
<p>小松原 指導主事</p>	<p>スクールカウンセラーの方は主に小学校へ回っていただいて他にスクールカウンセラーがいらっしゃるんですけども、スクールソーシャルワーカーは、本年度から配置をさせていただきました新しいポストでございまして、中学校を中心に回っているんですけども、現在のところの最初の任命した方がご家庭の事情で、途中で退任をされまして、ちょうどこの9月から新しい方が週3で当初入っていたんですけども、現在は週2で来ていただいておりますので、事実上ご活躍していただくのはこれからというような形になっております。</p>
<p>市長</p>	<p>やはり4年、5年のスパンで見たら、かなり変わってきているということなんですね。すいません。良くなってないなというか、思っていたほど伸びてないなみたいな部分はございますか。</p>
<p>異委員</p>	<p>特に中学校なんか急に先生が若手の先生になりましたしね。やはり先生方、若手も中堅もベテランもおられた中で、子どもを見ていっていただく、そういう意味では、就学前の方がいろんな年代の先生、経験豊富な先生もおられれば、若い、動きやすい先生もおられるので、そういう意味ではいいんですけど、中学校なんかちょっと先生の偏りが感じられて、ちょっと子どもの細かい見えない部分はどうかかなという不安はあります。だからいじめとかもやはり、なかなか先生らにはキャッチできない部分だけけど、親は敏感にキャッチされる、割とそういう意味では保護者がしっかりされている家はいいんですけど、なかなか子どもと向き合う時間がないっていう家については、これからも問題が増えてくるんじゃないかなというのは感じています。もっとあると思います。</p>
<p>市長</p>	<p>ありがとうございます。もっとあるというご指摘でございます。</p>
<p>吉川委員</p>	<p>まず学力の育成の中でね、確かに小学生についてはなかなか学力が上がってこないというのはほぼどこでも、今までずっと同じ課題が残っているのではあると思います。ただ今データを見せていただいて、同一集団の小学5年から中学3年までずっと追って行って、中学2年からは大分全国平均近づいていると。3年だったらほぼ全国平均近づいていると。これが一体なんでだと。この原因は。ただこれも今中学3年生の方が、今まで同じようにずっとデータを取ったら、同じ集団をずっと統計とったら、同じような形で出ているのか。そこを分析して、そこに問題を提起して検討する余地があるのかなと。これから見たら、小学生ですらできてなくても中学生ができてくるからと、データ上思ったんですけども、その辺の傾向をずっととっていただいて、すべてその分どんどん中学2年、中学3年になった</p>

らどの集団も同じような傾向で上がっていくというのがあれば、その後は僕の意見としては心配ないのかなと気はちょっとあったんですけども、それも、もし分かれば、教えてもらいたいなと思っています。それからもう一つは、豊かな人間性の育成でやはり小学生のいじめの認知件数が非常に多いと。多いということはイコール、不登校にも繋がってくるのかなということも考えられるのではないかなと。そのいじめにはどのようないじめがあって、大きないじめに発展しないいじめなのか、ちょっとした子どもの場合のけんかの中のいじめみたいなものか、ちょっとこの内容は分かりませんが、先ほども教育長の部屋で話していたんですけど、大阪市もいじめがどんどん上がってきて、非常に重大ないじめに発展していると。その中で第三者委員会も立ち上げて、その問題解決に当たるということを行っていますので、そこまで発展しないように宇陀市としては、やっぱり若い時に芽を摘んで対応していくことが一番問題であろうかなと。そこにやっぱりこういう統計上、中身を検証していただいて、早くその解決方法を目指すというのが、妥当ではないかなと思っていますけども。意見としてはそのぐらいです。

市長

いじめのところなんかでも特に、数字を見ますとかなりショックな感じですが。峯畑委員さん、いかがでしょうか。

峯畑委員

一つ、学力状況調査の方で国語の方は先ほども話出ていましたが、ちょっと平均より下回っているということで、若干これについては寂しいなという思いをしています。というのも、昔から宇陀の方では国語の教育が非常に盛んというか、先生方が力を入れている人が多かったんです。だから生活作文発表会であったりとか、そういった国語関係の行事も非常に多くて、取り組んでこられてたのにちょっと残念かなという思いでいます。人も変わっていますから一概には言えないわけなんですけども。いろいろな要因はあると思うんですが一つ、図書館の蔵書のことがふと今気になったんですが、今までは蔵書数があればというふうに思っていたんですけども、最近の子どもはどれも背表紙が汚れていたりしていたら、手にとらないかなという風にちょっと思ったりするので、やはり新しい子どもの関心を引くような、図書の実と云うんですか、そういったことを目指していかなければいけないのかなと、そんな風に一つ思いました。それと、昨年度からエアコンをつけていただいて、非常に特に今年は役に立ったわけなんですけども、その図書館、図書室にないなあと思いました。じっくり本読むときにやはり欲しいなと。他の特別ケースはとにかく出入りするとしても、落ち着いて本を読むとなれば、ちょっとそういう点が欲しいかなと。ゆくゆくそういった場所にもエアコンの設置ができたかなというふうに、ふと思いました。それから2点目なんですけども、宇陀スタンダードのことです。先生方の指導のやり方、この宇陀スタンダードでちょっと先が見えてきたんじゃないかな、先ほどからも話出ておりましたがちょっと手応えがあるように思います。どういう授業の進め方をしていったらいいのか、子どもたちにわかる授業をどう創造していったらいいのか、どう活動していったらいいのかというのをこの道筋で考えていけるので、もう少し長い目で見ていきたいな。これが定着して、より工夫が見られるようになれば、もう少し学力が上がってくるのかなというふうに思っています。もう少し時間をかけて見ていきたいなと思います。それから3つ目に、課題になっております家庭での学習の習慣の定着ということなんですけども、ずっと課題であって、なかなか家で学習を自主的にするというのが少なかったのが現状なんですけども、最近、学校の方で、家でどんな勉強したらいいのかというふうなことを示してくれたり、それから、先生方、一人一人の学習ノートをしっかり目を通してきて、どういふふうなやり方をしたらいいのかと子どもたちが分かってきているような、そういう学校も出てきていると思っています。それがどの程度できるかなということなんですけども、

	<p>一つはやはり子どもたちに早い時から夢を持たせるというか、そういう子ども自身に興味関心を起こさせるという、その動機づけみたいなものを何とかしてやっていけたら、それを調べたいために自ら学習していくというふうな子どもが育ってくるのではないかな。だから、夢を早くから持たせる、そのためにどうするかというふうなことですね、そのところにも何とか目を向けられたらなと思いました。</p>
市長	<p>ありがとうございます。一通り4名の委員さんに伺ったんですけども、まだこの部分、至らないよというところがございましたら、是非教えていただけたらと思います。自尊心ですとか、或いは体力の話ですとか、或いは英語ですとか、他にもいろいろ話題盛りだくさんでこの資料がありますので。どうぞよろしくお願いします。</p>
岡本委員	<p>はい、すいません。私も今説明聞いた中で、宇陀市の子どもの規範意識という部分が非常に気になったんですけども、よく学校で学習することが一番だと、私もここの教育委員になる前はそういうふうに思っていたんですけども、以前の先生方からいろいろ話を聞いていますと、宇陀市はどちらかといえば、分母は小さいから点数を上げようと思ったら簡単だと。それなりの勉強をその子にやしたら、自然と子どもは賢いからできるんだと。それは、こういったいろんな先生方のこれからの進め方で、例えば今でしたら宇陀スタンダードという進め方でじんわり上げていったらいいと。その年その年の子で、成績の良し悪しは変わるけども、テストの点数を上げるのは簡単だという話を聞かされました。けど、もっと大事なものは、規範意識だと。やはり子どもの間に、きっちり学校の中のルールを守り、友達を作り、自分だけがという生活じゃなくて、地域の方々と連携というか、地域の方々と顔見知りになりながら、祭りも出て、いろんな行事も出ながら運動会もやりながら、楽しい生活を送っていくというのは一番大事ではないかと。そういうことが起こったらまた将来宇陀で子どもを育てようかとかいうふうに繋がるから、こういう学校の中のいろんなつき合い方、規範意識が非常に大事だというふうに教えられたことがありました。その中で私もこの数字を見た中で、やはり、だんだんだんだん子どもたちって何か殻に閉じこもっていつているんじゃないかなというふうなことをちょっと感じておりますので、この辺の部分これから、大綱の中でもありますように、子どもたちが生き生きと生きていける宇陀市の教育の中で、やはりこの部分を何とか、先生方だけに頼むんじゃないしに、他の方々と連携しながら、この数字をできるだけ上げていきたいなというふうに感じましたので、この部分をこれから重視していただければなというふうに思います。</p>
市長	<p>ありがとうございます。時間というところもございまして、次、コロナのレポートございました。コロナのレポートに関係のご意見をいただいて、このあと、もう一度この二つのレポートを振り返ってまたご意見いただければと思います。次は、申し訳ないですけど、コロナのレポートに関してのご感想でもご意見でもいただけたらと思います。</p>
巽委員	<p>4月、5月、私が一番気になったのはやはり小学校1年生、入学した子どもたちのことでした。中学生は中1ですから友達や仲間との情報交換も十分できたと思うんですが、やはり第一子で小学校に入学された、その家庭の不安というのはすごく大きかったと思うんですね。その辺ちょっと学校の現状を聞いていただいていたら教えて欲しいのと、それから、これからのウィズコロナの、いつまで続くかという中で、確かに見えてきたもの、明確になったものってあると思うんですが、やはり難しいなと思うのは、私も一つの地域の住民として思うのは、学校に行きにくい。だから、学校側からすれば、家庭や地域社会と連携協働っていうのが、どういうふうに進めていったらいいのか。今まで行事のある度に、地域の人に寄ってもらっていたのが、地域の人も行きにくいし、学校も呼びにくい。子どもとの接触っていうのは本当に限られてくるので、その辺は本当に入学式や卒業式行かせて</p>

柳井 指導主事	<p>もらうだけでも子どもの様子が分かるんですね。地域の人たちもやっぱり子どもがいろいろが孫がいなくてもその学校のことを見守ってくださっていたと思うんですが、それがだんだん、この状態続くことができなくなってくるから、この辺がちょっとしんどいんじゃないかなあ、学校の現場の声もちょっと聞かして欲しいなあと思いました。</p> <p>小学校一年生のことに関してなんですけれども、保護者の方から具体的な話というのは聞かせていただいてないんですが、分散登校等の様子を見せていただいておりますと、普段でしたら30人を1人の先生が見るという体制で授業がもうスタートしていくんですが、半分の人数からのスタートということで、逆に細やかな体制で子どもたちの様子を見るということと、学習の方もスタートがちょっと早くなってしまっておりまして、子どもたちも逆にそれを集中して取り組むという様子は学校の方でらせていただいております。その後も1年生のことでちょっと学校来づらいということも、例年1年生ってというのは、来づらくなるお子さんもいらっしゃるんですが、その程度の数にはちょっと聞かせていただいておりますが、それ以外今年に限って多かったというような話を聞かせてもらっておりません。以上です。</p>
垣内主幹	<p>失礼します。地域との協働というところですが、学校の方とこれまでからもいろんな形で支援いただけたところは、管理職の先生が中心に支援していただいたと思うんですけれども、やはり今後、新しい教育課程でも、社会に開かれた教育課程ということで学校はいろんな課題を抱えている中で、学校だけでは解決できないこともたくさんありますので、今回、生徒指導とか特別支援に関わっては宇陀市の方、本当に整えてはきているんですけどもそれ以外に今回のコロナのような、本当に学校だけでは答えを見つけることができない時や、学校の先生方だけでは時間的に人的に余裕がないときに、やはり地域の方々と協働してということは今後宇陀市だけじゃなくて求められるということは十分思っているんですけども、やはり社会の中でも先生もご存知のように、コミュニティスクールというか、その人材が、この校長先生やからできる、やっていたとか、校長先生が退職されたりしたらもうそれが継続されないというような形では持続可能な取り組みとなっていきませんので、先生おっしゃるようにやはり地域の方で、そこに学校にやっておられなくても、地域の方が、長い目で、その学校を見ていただける外部人材が必要となっていく。それがコミュニティスクールのコーディネーターという形で、国の方では言っていますけども、そっちの方の組織づくり、特別支援生徒指導の組織づくりは、宇陀市の方では大分進んでいると思うんですけれども、今後はそちらの方の組織づくりというのもしていくことが求められるかなと思っておりまして、県の協力も得ながら、でも最初はやはり学校をみんなで作り上げるというところなんで、学校が今何に困っているのかということ、地域の人と共有する機会を持ちつつ、そういった組織づくりを進めていかなければならないなと思っておりまして、県の指導も得ながら、そういったコミュニティスクールとまではいかなくても学校運営協議会づくりというのを、今後進めていきたいと思っております。</p>
市長	<p>要は、コミュニティスクールづくりは宇陀市では遅れているということですね。</p>
垣内主幹	<p>県立学校については期限を決めてやっているんですけども、義務教育段階では全体進んでない、全国的にも進んでない状況でして、特にうちが遅れているとは言えないですけど今後これは学校の現状からも必要になってくるであろうことですから、積極的に進めていく必要があるかと思えます。</p>
巽委員	<p>小学校単位、中学校単位それぞれで学校評価委員さんは定期的に集まって学校の現状を聞いたりしてはるので、そういうところからちょっと一歩踏み込んでということですよ。</p>

吉川委員	<p>僕ちょっと懸念していることが二つあってね。一つは、3月途中からずっと6月まで、ほとんど休んで、家で自宅学習というか、勉強してですね。一応、落ち着きというか、学校である程度規則正しい生活してもらって、勉学に励むというのは理想かなと思うんですけど、なかなか、うちも孫がいるんですけど、だんだん落ち着きがなくなってきた。今やっと元に戻ってきたかなと思うんです。それは徐々に解決していくかと思えますけども、この6月になりまして本格的にまた勉強が始まってね、1年間、学校で教える。単位で、これをどうしてもクリアしないといけないというときに、順序よくいっていると思えますけども、分かってよう分からなくても早いこと授業を進めてなくてはならないということで、乗り遅れる人は出てこないのかなと。そこちょっと気になっておるんですよ。できる人はできるけど、ちょっとゆっくりの人も、もうどんどん進んでいったらわからなくなったわという、そういうことが起きてこないのかなと、それをやっぱり先生もちゃんと見ていただいて、1人でもそういうことないようにご配慮を願いたいなと思います。それと、よくテレビで聞きますけど、コロナ禍が原因で不登校になってしまって、もう学校に行くのが嫌だという子がたくさんいるといろいろ聞いていますけど、宇陀市もちょっと現状ははっきりわかりませんが、そういう生徒さんがおられたらそれも早いこと学校に登校できるような対策をしていただいて、学校生活を皆さんが楽しんでもらうということが必要ではないのかと。その辺の現状は、僕は分かりませんがその辺も先生方としては把握されて、どういう対策を取られているのかなと、そういうところです。</p>
垣内主幹	<p>コロナが影響で不登校が増えたという報告は聞いておりません。学習の遅れにつきましては、コロナがなくても差がありますので、それは、コロナがあるからという話ではないんですが、本年度は特にちょっと臨時休校が長かったので、そういった子もいるのかなと思いますが、学習の速度を速めていることはなく、夏季休暇も大分短縮して進めていただいているので、もう8月いっぱい1学期の授業は各学校とも取り戻せていると聞いておまして、特に急ぎ足でやっているというところは現状ではないところです。これは本当にコロナがあってもなくてもそういった同じような進路を進めなくて、勉強するのに時間かかる子はいますので、本年度は特に国の加配でコロナがありましたから、9月から18名の学習支援員の加配をいただいているところなんです。課題が、そこが、ただ指導するものがなかなか見つからなくて、まだすべての学校にはその18名分配置されてないという現状あるんですけども、コロナで学習の遅れが目立つ子に対して、付き添いできるような教員は18名分確保はしておるところです。そういった先生方も活用しながら、これまで通り、先生方が時間見つけて丁寧な指導をしていただいていると思っておりますので、そういった形で進んでいると把握しております。</p>
市長	<p>安心して下さいというような事務局の話ですけども、とはいえ、委員からやっぱり貴重なご意見いただいておりますので、やはり、事務局としても安心せずに、おっしゃっていることが実は現実にあるのじゃないかということで、現場で取り組んでいただきたいなと思います。</p>
教育長	<p>ストレスチェックをやってもらって、スクリーニングやってもらっていわゆる乗り遅れの学習のことを吉川委員心配されているけど、メンタル的な部分とか、そのあたりもやってもらっているということ参考に、ご意見あったら。</p>
柳井指導主事	<p>スクリーニングの方は、6月の下旬頃から、各校にさせていただいております。学習の定着度とかはちょっとそこの中では、図れてませんで、学習習慣の乱れとか、生活習慣の乱れなどのそういう危険因子、今後何か出てくるであろうところのチェックの方はさせていただきます。それで、学級ごとにスクリーニング会議というのをやっていた</p>

だきまして、要チェックの子どもに関しては、カウンセラーの先生や、学校、学年単位で関わるなど、細かく一人一人対応を考えていただいておりますので、それについて各校で取り組んでいただいておりますので、今後も続けていただき、また11月ごろ、学習が生活も定着したところにもう一度諮らせていただいております。またその変化というのにもみたいなどは思っております。

吉川委員 なぜこれを言ったかという、先ほど報告の中で臨時休業期間中の在宅学習が基本で、先生方宿題をただ出しただけで、生徒の様子を全然うかがわず、出した回収しました、それがあってね、そもそもそういう基礎が多いのかなと。それで分かるのかなと。だからやっぱりその期間中は一人一人の生徒と対面して様子を見ながら、こういう学習ではちょっとおかしい、もっと改善しないとイケないのかというように考えられると思うんですよ。それがなくて、一応指導したということを知りまして安心しているんですけども。そういうことをね、これ始まって、先生方も本当に、そうやっているのかなってちょっと気になったので質問させていただいたんです。

教育長 実は吉川委員おっしゃるような意見いろいろ局長の耳の方にも入ってまして、例えば先生方、教育委員会は、ちゃんと家へ行って、対面で話聞いて、或いは電話をかけて、子どもと確認しているじゃないかっていうふうにこう書いてあるけども、うちとこ来てくれへんというふうなご意見いただいたりとか、集めっ放しで、しばらく経ってから返してきたりとか、一生懸命やってくださっている学校の現場の先生方の思いと、保護者の方の思いとがちょっとミスマッチしているようなところ辺があったんじゃないかなという話を局長の方も聞いてくれまして、それをまた主幹の方から各学校の方へ、こういうことを聞くんで、再度またよろしくお願ひしますということで、我々の方からも、連絡させていただいたということは正直ございました。

峯畑委員 ちょっと今のことに関わるか分からないんですが、コロナの影響で、子どもたちが、落ち着いて学習できないっていう、ちょっとそんな状況があるように聞いています。というのも、家で過ごす時間が多かったんで、どうしても学校の学習に戻れないというふうなことがたくさんあるように聞いています。そんな中で、4月からスクールサポートスタッフさんを置いてもらっていますよね。もしあの方がいなかったらと思うと、もっと大変やっただろうなと思いますね。あの方をおいていただいたので、消毒とか、給食の配膳とか、いろいろお手伝いしてくれたりしてくれているのでだいぶ違うように思います。それともう一つは、学習指導員の方、あれはどこから予算で出るんですか？入ってくれていますよね。退職した方とか、或いは学生で賃金をもらいながら来てもらっているっていうふうに、今まではもうボランティアだけで来てもらっていたんですけども、そういう手当がされているということで、来てもらいやすくなっているなと思いますね。複数人の学生さんも来てくれている現状がありますので、やはりえらい力だと思うんです。子どもたちにちょっと寄り添ってあげるだけで、エネルギーが湧いてくるといいますかね。だから、そういう意味では、4月以降そういう取り組みとか配置とかしていただけてありがたかったかなというふうに思っています。その続きにその9月からまだ全員配置されてないっていう。ちょっとその辺は残念やなど、早いこと何とかしていただけたらなというふうに思います。それと、それに関わってなんですけど、まだやはり学習に行きにくい児童生徒がたくさんいるんだそうです。学校には来るんだけど教室までは行きにくいというふうな子どももいたりしているので、学校に来たときから、養護の先生であったり、先ほど出ているスクールサポートスタッフであったり、学習支援員であったりという方が全部関わって、元気が出てきたら教室の方に行けるようにしているということで、本当に学校が一丸となってし

ている。サポートスタッフの方は教えることはないですが、そういうことが一緒になってやってくれたりしているそうです。そういう力というのはありがたいなというふうに思いますね。ただ、先ほど吉川委員さんの話にありましたが、すべての学校がそうかというところとちょっとその辺は、それぞれの力量もあるでしょうし違うんですが、今は本当に学校が一丸となって取り組んでもらっているという姿が見えます。ひょっとしたら、そういうことで学校に格差が出てくるんじゃないかってちょっとその辺は危惧しています。もちろん管理職のリーダーシップということもあるでしょうけども、そういうことにならないように、どの学校でも一丸となってこの時期を乗り切っていけるように、何とかしていただきたいと思います。そのために人的な補助も早くしていただけたらなど、そんなふうに思います。

中西局長

峯畑委員。ありがとうございます。今回のスクールサポートスタッフとか学習支援員といえますのは、今回8月議会のときに議会で承認いただきまして、このスクールサポートスタッフというのは実は9月から配置させていただきました。また学習支援員の方、普段の特別支援の子どもさん方の支援員等は4月から配置させていただいておりますけれどもコロナの関係の部分での学習の方の支援員もまた9月の方で配置をさせていただいております。ただ、先ほども言うておりますように、人の配置がなかなかすべての学校に配置できないというのは、学校も教育委員会も、いろんな方にお声をかけさせていただいております。学生ボランティアの方はもう数年前でしたらどんどんそちらの方から、行きたいということで、学生の方からお声がかかってきた時代が、2、3年前まではあったんですが、今は本当に大学の方をお願いに行っても、なかなか来ていただけてないというような状況で、しかし、今、学校の方でもまた教育委員会の方でも、せっかくいただいた配置の部分での予算ですので、できるだけ早くすべての学校に配置できるように努力して参りたいと思います。それから、学校の方でのその格差という部分については先ほど吉川委員がおっしゃいましたように私たち今、教育委員会の方はやっているというふうに思っている、なかなか保護者の方ではそうではないよということ、私たち市民の方に聞かせていただいたり、また、いろんな方、職員の方からも聞かせていただいたりします。それを、聞かせていただいたおかげで、学校の実態というものが、6月、5月に、大変よくわかりました。指導主事の方も、すべて学校を回っていただいてその実態を知っていただくことができ、よりその実態に応じてしっかりと指導できたという部分もございます。今後につきましても、やはり私たちが自己満足するのではなくて、絶えずそういう情報をしっかりと聞いて、状況を把握して、子どもたちのよりよい教育環境というものを努めていきたいと思っております。ありがとうございます。

岡本委員

私も今のコロナウイルスの関係の学校の現状について説明を受けましたが、最後のところで、コロナ禍で見えてきた学校の教育の課題という部分がありました。この課題の部分、非常に急がれる問題ばかりがここに書かれております。その中で、全部で5つの項目があるんですけども、ソーシャルディスタンスを保って少人数学級の実現と書いてありますが、今もありましたように、では先生の確保はどうするのかとか、教室の確保が果たして全部できるのかとかいった部分、また、在宅学習で主体的に学習に取り組む態度と書いてありますが、この中で、うちの子は1人では家で勉強できないと、これ多分親の意見だと思ってしまうんですけども、子どもたちの実際の答えは、令和元年度の確かな学習の育成の中では、中学校も小学校も自分で計画を立てて勉強していると答えています。けど、親の目から見たら、いやうちの子は1人では家では多分できていませんよってというような答えがここにはあるので、子どもたちと親との意見の相違の中で、実際に主体的に家で学習ができるか

どうかといった部分を考えるんじゃないに、先生方はどうやって楽しく家で勉強をやるんやと、やっていく方法というもの今の中に子どもたちに教えていただいてね、それこそまた授業が再開されないことも出てくるかもわかりませんので、その部分を今の中に子どもたちに教えていっていただきたいと思います。そして次のオンライン授業と書いてあるんですが、前も宇陀チャンの中の動画配信で、先生方もやっていただいた部分もあるんですが、今後は宇陀市として、1人1台ずつの端末を購入した中で、動画配信をしていくのか、それともウェブ授業を行っていくのか、という部分をはっきり示していただいて、ウェブ授業の中ではこの前のWi-Fiの環境の話もありましたけども、そういったことも整備できるようであれば、どうやってウェブ授業を行っていくのか。大学によったら学校に来なくてもいいから、全部ウェブ授業でやっている大学も増えてきておるとは思いますけども、小学校、中学校また保育園、こども園、一体どういった形で取るのかということも十分に考えていただいて、先生方のウェブ授業の発信力の向上を行っていただきたいなというふうに思います。それと、学校行事の中でカリキュラムとマネジメントと書いておりますが、一体、校長先生、教頭先生が、どういったマネジメントを各学校先生方に行っていくかというのを、校長会も開かれていると思いますけども、その中で、うちの学校だけがじゃなくて、やはり校長会の中で十分話し合いを行っていただいて、共通の課題で、もしこういう次のコロナのあれが出たらね、やっていっていただきたいなというふうに思います。それと、最後の学校のコミュニケーション力というところで、家庭や地域との連携を深め協働を深めるといった部分では、各学校にはPTAというものが全部ありますんで、私もPTAを何年もさせてもらっていた中で、私がしていた中では校長先生とか教頭先生また他の先生方と非常に密に連携とらせていただいて、いろんなことを解決してきました。ですので、その中で当然保護者からの意見もきつい意見もたくさんありましたけども、それをPTAというろ過器を通して、十分に学校の先生方の思い、先生方休みの間一体何をしとるんだらうと、こんなことはもうPTAを通じて、言ったらいいと思います。そしてPTAのコラムの中でね、先生方もこういうことをやってくれているんですよとかいった部分をワンクッション置いて、各保護者に伝えるのか、こんな状況で修学旅行を行かせていいのかという、こんな意見もあつたらね、必ずしもではないけども、子どもたちの一つの思い出として、できるだけ行かせてあげて欲しい。例えば行き先にはこの前、教育委員会の会議の中では、十分に対策をとったところを決めて行かせますというような話もされておりましたんで、そういうことも十分PTAを通じて、PTAともっと密に連携をとっていただいて、保護者の方に伝えていただければなというふうに思います。PTAの中にも広報部というのは必ずありますので、その広報の人も通じてね、親、保護者の方に伝えていただければ、少しでもこういった意見が少なくなるんじゃないかと思います。そして私が一番思うのは、このコロナの中で一番苦労されたのは先生方じゃないかなというふうに思います。やはり入口のドアの消毒をしたり、本当に気を遣っていただいたというふうに思いますんで、その先生方の負担を少しでも軽減することによって、この課題に向けて、先生方がもっと力を注いでいただけるんじゃないかというふうに思いますんで、教育委員会としては、その先生方の普段の子どもたちに教える部分を手助けする部分を何とか確保していただいて、先生方がこういった課題について十分取り組めるような体制づくりを行っていただければなというふうに思いますので、また今後ともよろしくお願いたします。以上です。

市長

どうもありがとうございます。今、コロナの話、それとICTといえますか情報が、実は5年ぐらいかけてやろうと言っていたやつがもう一気にこの1年でやってしまえという

ような、かなり我々も1年前にはちょっと予想できなかったような動きがあります。今日も委員の方からもそういうご意見も出てきました。従来からの課題もあります。そして、コロナ、情報化という新しい動きもあります。そういうところを踏まえて、最後のご意見を集約させていただきたいんですけども。3番目としまして、そういうのを踏まえまして今後の学校教育の方向性といえますか、何かそのことについて、やはり、去年と今年では全く情勢が変わってしまった、先生も生徒もっていうのも今のお話でもよく分かりますし、あと残りの時間をですね、今後の学校教育の方向性についてということで、皆様のご意見をいただきたいと思います。まずは、教育長からその辺り口火を切っていただければと思います。

教育長

委員の皆さん本当に貴重なご意見ありがとうございました。実は学校の今後の教育の方向性という、一定の限られた範疇の話のテーマなんですけども、もう一つ広く考えていただいて、実は昨年度1年かけていただき聞かせていただいた中で、委員さんとか、いろいろとご協力いただきまして、一定の改訂のところまでは持ち込んだんですけども、先ほどからお話聞かせていただいている中で、子どもたちの現状、或いはコロナの状況の中で、例えば主幹がまとめてくれましたけども、コロナというのがこれだけの影響力を持って、さらにまたICTへの関係等と様々な形で波紋をかけておりますので、コロナだから必要なのではなく、コロナによってこれからの学校教育で必要なことがより明確に、岡本委員まとめてくださいましたけども、これはコロナがあってもなかったも、大事にしていけない課題ではないかなという視点であったり、それからまた、5年間の計画を立ててギガスクールのタブレット1人1台端末というテーマが、今年1年で配置されましたら、昨年お時間いただいて論議いただきましたICTの整備という項目で、大綱の方にもまとめさせていただいているんですけども、整備だけじゃなくて今度はその活用であったり、利用の方をまた検討していかなければならないのではないかなということ、先ほどから様々なご意見いただきました。学校差のことであったり、ここには異委員のおっしゃる意味で、学校差があったり、コロナの意味での学校差があったり、そこへ世代交代って一つの物理的な要因であったりとか、数年かけてやっていかなあかんというテーマがあったりとか、様々な面で、学校課題、学校教育の方向性って出ましたですけども、再度大綱の一部修正っていう形もしていただきながら、社会の対応といえますか、状況の変化といえますか、こういったものも盛り込んでいく中でよりよいものとして、新しい市長さんのお考えもあるでしょうし、そういったところで昨年お世話かけて作っていただきましたけども、一部修正を加えていただきながら、1年かけて、コロナのことも、学校教育のことも、子どもたちの現状のことも、様々な課題を挙げていただきましたですけども、事務局の方で整理させていただきながら、どういうふうな形で盛り込んでいくかということ、を再度出させていただいて、またご議論をいただいて一部修正という形でもっていけるような形での、学校教育の方向性をその中でまた論じていただくという形にさせていただいたらどうかなという思いも申し上げさせていただいたらと思います。

市長

今教育長の立場で、問題点、議題の提起というのがございました。委員の皆様のご意見をお伺いしたいと思います。

吉川委員

本当に今、教育長言われましたように、コロナによって、取り組みがころっと変わってきたというのが現実ですやろ。それに合った宇陀市の教育大綱を考えていかなければ、一年ずつの教育大綱でしたらいいかと思うんですけど、やっぱり5年間、宇陀市の教育大綱を定めるときに、今の時代に合った状況を入れなくてはならないと思いますので、見直しも必要かと思います。それでやはり、先ほど言ったギガスクール構想ですか、これも5年間

	<p>でやれというような、2019年の時に大臣が言われて、それも推し進めていくであろうと。新内閣になってやはりデジタル化もこれから加速されていくのかなと。そういうことをやはり学校教育の中にも取り入れてしていかなきゃならないので、教育長の提案については特にこれは必要だと私は思います。</p>
岡本委員	<p>私も今の教育長の意見についてなんですけど、私も吉川委員と全く同じです。やはりコロナ禍の中でね、これだけ目まぐるしくいろんなものが変わっていく中で、教育大綱が去年の中ではね、こういったことがまだ発覚してなくて大綱を作ったわけなんですけども、やはり1度見直して、大綱も一部修正をしながら、新しい形で、宇陀市の教育委員会はこういう方向で進めていきますよといったものを宇陀市民の方々に打ち出すのが、大事なことではないかというふうに思いますんで、その辺のところ再度検討し直して、大綱の方も見直してはいいかなと思います。それによって、また宇陀市のその教育部分を早急に変えていただければというふうに思います。</p>
峯畑委員	<p>今、2人の委員さんがおっしゃられた通り、私もちょっとやはり、細部の部分を見直したいなというふうに思います。ちょっと今どうしたらっていうのは分からないんですが、このままだと数年間耐えられるかなという、ちょっと危惧する部分がありますので、時間をいただいて、もう少し練っていったらなというふうに思っております。</p>
巽委員	<p>大きな基本目標とか、基本方針の大きな柱というのはあんまり変えなくていいと思うんですけど、確かに具体的な事業と連動する部分ですね、そういうところ見直していった方がいいと思うし、何よりも市長さんの思いというのをここに反映していただきたいというのが、私の気持ちです。</p>
市長	<p>私の思いというのも、浅はかですけれども、こうしたら、やりたいな、というのはございますけれども、それよりかはやはりコロナとこの情報化のスピード。コロナは全く予想ができなかった。去年、せっかく皆さん議論していただいた中で全く、こんなことになるのは誰も思ってなかったっていうのが一つ。これは子どもの成長にこんな影響するのかなというのは、自分自身驚いて恐ろしいです。もう一つはやはり情報化も、私などの世代にしたらあまりもすごいスピードで進んでいて、教育のスタイルもどんどん変わっていると。コロナと掛け算することですごく変わっちゃって、何か近未来を見ているような気がします。ただその中で今、巽委員おっしゃったように、やはりベースは時代が変わろうと、やはり普遍的なものがあるのかなというのも自分でも思います。そういった意味で、委員の皆様のご意見、力をいただいて、ベースは本当にもう変わらない。時代が変わろうが変わらないんだろうけれども、その環境にどう対応していくかみたいなのところの、教育長言いました、もう一度一部修正といいますか、一部見直すような、違った視点でということで、大事かなというのも思いました。大変、委員のみなさんから力強いご意見をいただきました。そうしましたら、教育長の方でまとめていただけますか。</p>
教育長	<p>まず子どもの現状についてということで、国語力でありましたり、いじめとか規範意識とか、それからまた、子どもたちへの実態等々、私自身も学校自体、数年ここで関わらせてもらってしまして、だんだん二極化傾向が強くなってきている現状があるのかなということであったり、或いはおとなしくて真面目にきちんと暴力行為なんかは少ないですけども、陰湿のないじめであったりとか思いを何らかの形で内向的といいますか内々に込めているところがあって、本当に夢を求めて、いわゆる昔の青春ドラマのような熱い思いで夢を持って生活しているという部分というのが非常に寂しい思いを一方では感じる部分も見られるのかなみたいな思いもございますので、今ありました宇陀スタンダードをさらに充実させながら、巽委員から出ましたですけども、モデル的にやっていただいている菟田</p>

野小中が結構いい成果を上げてくださっていますので、それらを広めることによって、さらなる子どもたちの良いところを、宇陀の子どもらしい素直な純朴な、そういったよさをどんどんどんどん伸ばしていき、そして資源がたくさんあるこの宇陀の自然の中で、こういうことをやったら面白い、これは面白いことになっていく、こんな勉強面白い、楽しいな、こんな学校生活になっていくように、もっともっと啓発できたらいいなというふうに思っております。またコロナの話の中でも出ていましたように、コロナがあろうとなかろうと主体的に学習に取り組む態度であったり、先ほどから出ております1人1台端末の学習環境をどう使っていくのか、或いは、校長のリーダーシップが学校差がないように、職員一丸となってカリキュラムマネジメントをやっていただく等々、課題も重複していくところがあるかと思っておりますので、先ほどから出ていましたように、大きな流れは大綱の中で動かさずに、一部修正をやっていただきながら、市長の思いも反映していただきながら、よりよい大綱になっていって、子どもたち、先生方、或いは保護者の方も手軽に大綱を見て、宇陀市はこういうところ目指しているのかみたいなものになればいいのかな。割と堅苦しいとこで飾っておくみたいな大綱じゃなくって、気軽に目にして気軽に話ができ、まだこうやで、でもそんなこと言ってるで、実質こうやでっていうのも、風通しの良いようになっていきながら、みんなで共有できる大綱になればいいなっていうことを感じさせていただきました。きちんとまとめてられないかとは思いますが、その点でよろしくお願ひしたいと思ひます。

古谷次長

令和3年の成人式のことについて、ご報告をさせていただきます。開催日は例年と変わらず、来年1月11日成人の日の予定でございますけれども、今回は、新型コロナウイルス感染予防対策といたしまして、会場を座席の間隔を確保できる総合体育館へ移して、実施したいと考えております。新成人の対象につきましては、市に住民登録がある方が245名と、今のところなっており、市外に出ておられる方も毎年30名ほどご参加いただいております。11月1日時点での市民の方にご案内をし、またホームページ等でお知らせする予定となっております。また、来賓の方のご出席については現在調整中ということで、改めてご案内させていただきたいと思っております。また記念行事についても、例年通り新成人の方の実行委員さんを構成しまして、内容の方を協議いただき、実施したいと思っております。今年については、コロナ禍の中で、各種事業が中止になったりというようなところではありますけれども、今後この時代を担う新成人の方々のお祝いということで、重要な事業としての成人式については知恵と工夫で、何とか新しい生活様式に対応した形で開催いたしたいと。そして、市全体で、新成人をお祝いし、今後の活躍を皆さんで願ひたいと、こういうふうに考えて開催したいと思ひますので、ご協力の方よろしくお願ひいたします。あわせて、続いてなんですけれども、成年年齢の引き下げというのが令和4年4月1日から行われます。これは民法改正ということで、18歳に成人が引き下げられるわけでございます。これに伴って成人式のあり方というものを昨年からご協議いただいております。教育委員の皆様方にも、昨年の会議でご意見をいただいておりますけれども、それらのご意見を踏まえたところ、令和5年以降の成人式についても、これまでの通り20歳の方を対象に、成人をお祝いする会を催したいと、このように考えております。これは成人になる18歳で成人式を実施する場合、進学とか就職とか、進路選択の大きな時期ということと重なりますので、教育的な配慮が必要ということもあります。また、内閣府が実施しました、成年年齢の引き下げによる世論調査等の結果や、また各種アンケート等の結果を踏まえたところ、20歳での式典を求める声が多々ございますので、このようなところになりました。なお式典の名称については今後、20

	<p>歳の集いとか、20歳を祝う会とか、ご意見いただきながらまた決定して参りたいと思います。今後この方針で、正式には定例教育委員会の方で、またご意見いただきご決定いただいた後、できるだけ早い機会に対象の方々にお知らせしたいと考えておりますので、よろしく願いいたします。</p>
中西局長	<p>私の方からは、給食センターの建設のことについて、ご報告をさせていただきたいと思っております。現在9月議会は会期中でございますけれども、去る9月9日の福祉文教常任委員会におきまして、新学校給食センター建設に関する進捗状況という形で委員会の方に報告させていただきました。報告内容につきましては、以前、定例教育委員会の方でも報告させていただいております通り、地元の住民より、旧野依小学校の跡地に給食センターを進めていただきたい、建設していただきたいという賛同いただきましたということも報告させていただいて、今後この建設につきまして準備を進めていくという形で、委員会の方で報告をさせていただきましたので、この総合教育会議の方で、報告させていただきます。以上でございます。</p>
市長	<p>以上、報告ということでさせていただきました。特に他、ないようございましたら、次回の総合教育会議の時期につきまして、お諮りしたいと思います。事務局お願いします。</p>
事務局	<p>次回開催時期については、第2回は11月末頃を予定しております。また、第3回につきましては、来年1月末から2月頃を考えております。詳細が決定しましたら、改めて委員の皆さまにご連絡させていただきますので、どうぞよろしくお願い申し上げます。</p>
市長	<p>それでは長時間にわたりましてありがとうございます。私も本当今回初めてで、大変私自身も勉強になったといいますか、本当にいい時間をいただけたなと思って感謝をしております。まだまだ時間あれば幾らでも皆様のご意見をお聞きしたいところではございますけれども、またそれは次の機会ということにさせていただきますので、本日の総合教育会議はこれで終了させていただきたいと思っております。本日はどうもありがとうございました。</p>